

使徒の働き5章1－16節 「聖めにある力」

1A 偽善の聖め 1－11

1B 一部の代金 1－2

2B 聖霊への欺き 3－6

3B 息絶える妻 7－10

4B 教会全体への恐れ 11

2A 使徒たちによるしるしと不思議 12－16

1B 心ひとつにした仲間 12－14

2B 病人や悪霊つきの癒し 15－16

本文

使徒の働き5章を開いてください。今晚は、5章の前半部分、1節から16節までを学びたいと思います。前回、4章では、聖霊のお働きが広がる所に、反対が起こるところを見ました。けれども、そこで人々の心が一つになって、祈りました。そこで聖霊の新たな力が与えられ、彼らは大胆に主の御名を宣べ伝えました。また、彼らは心を一つにしていたので、物を分かち合いました。自分たちの財産を打って、その代金を使徒たちの足もとに置いて、それで分け与えていったのです。貧しい人たちがいなくなるようにするためであり、また、財産の共有で、心の一致を行いで示したのです。このように、キリストの愛の結びつきがありました。

その模範として、後に主に用いられる、慰めの子という意味のバルナバが、自分の財産を売って、代金を持ってきた話があります。「4:36-37 キプロス生まれのレビ人で、使徒たちにバルナバ（訳すと、慰めの子）と呼ばれていたヨセフも、所有していた畑を売り、その代金を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。」それに続く話です。

1A 偽善の聖め 1－11

1B 一部の代金 1－2

¹ ところが、アナニアという人は、妻のサツピラとともに土地を売り、² 妻も承知のうえで、代金の一部を自分のために取っておき、一部だけを持って来て、使徒たちの足もとに置いた。

「ところが」という言葉が始まるのが、この5章です。聖霊による力強く、そして美しいみわざがある時に、そこに人がそこに入り込むということが、しばしば起こります。初めて、イスラエルの民が、主に対するいけにえを始める時、すなわちアロンとその息子たちが、全焼のいけにえを初めて献げた時に、主の栄光が現れ、そのいけにえを焼き尽くしました。それを見て、民は喜び、そしてひれ伏した、とあります（レビ 9:24）。ところが、アロンの子ナダブとアブフが、自分の火皿を取り、主

に命じられていない異なる火を主の前に献げました。すると、主の前から火が出て彼らを焼き尽くしてしまいました。

もう一つ思い出すのが、アカンの貪りです。エリコの町を、イスラエルの民は取り囲み、主がその城壁を倒されました。そしてことごとく、そこにある人々も、そこにあるものも聖絶しました。すべて主のものなので、金銀は、主の家に献げなければいけません。しかし、その栄光をアカンは金銀欲しさに、一部を自分のものとししました。その後どうなったのでしょうか？ 次の町、アイに対してことごとく敗退してしまっただけです。アロンの息子たちの異なる火もそうですが、主の栄光が現れているところに立ち入り、それで主が聖なる方であるゆえ、殺されたのです。

教会にとって、聖霊の働きがあり、福音が広がっていく時に、4 章でみたように反対が起こります。しかし、外部からの反対は、しばしば教会を清めます。ますます、主の命令に従順になり、反対者に対して大胆になります。人々の間に、キリストにある愛の結びつきが強められます。ところが、そこで起こるのが、内部からの攻撃です。主のものとされていると思われる者たちが、突如として、主の栄光のためにひれ伏すのではなく、主のものを取って行ってしまうのです。サタンは、外部からではなく、内部に入り込み、人々の欲を刺激して、主のものに触れる罪を犯させます。

アナニアと妻サツピラの犯した罪は、3 節以降を見ればわかりますが、「偽善」です。キリストに愛に駆り立てられて行っている、財産を売って使徒のところにその代金を持ってくるという行為を、したように見せかけているということです。「マタイ 6:1 人に見せるために人前で善行をしないように気をつけなさい。そうでないと、天におられるあなたがたの父から報いを受けられません。」アナニアの意味は「神は与えたもう」で、サツピラの意味は「美しい」なのですが、それを人に対して、そのように見えるようにふるまっただけです。

偽善のギリシア語「フボクリシス ὑπόκρισις」は、「演技」という元々の意味があり、仮面をかぶって、人の前では違う人物のように見せかけるのですが、実を伴っていないことを指しています。なんと、きわどい罪であり、欺きではないでしょうか。聖霊のお働きが顕著なところで、いつの間にか主のなされているものに、自分の肉を混ぜ合わせていくのです。

2B 聖霊への欺き 3-6

³ すると、ペテロは言った。「アナニア。なぜあなたはサタンに心を奪われて聖霊を欺き、地所の代金の一部を自分のために取っておいたのか。⁴ 売らないでおけば、あなたのものであり、売った後でも、あなたの自由になったではないか。どうして、このようなことを企んだのか。あなたは人を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。」

ここでペテロは、はっきりと、サタンにアナニアが心を奪われたと言っています。そして、聖霊の

お働きによって代金を持ってくるというところの行為に、偽りを入れたのです。サタンは、外からの迫害や反対で教会を攻撃できないと知ると、内にいる者たちの友になることによって欺き、だましを行って、それで教会を弱めようとするのです。

ここで大事なのは、アナニアが代金の一部を取っておいたことが咎められているのではないことです。欺いたことが咎められているのです。「**売らないでおけば、あなたのものであり、売った後でも、あなたの自由になったではないか。**」と言っています。第一に、売らないでいることは、全く咎められていません。第二に、売った後でも全く自由にすることができます。彼の行ったことは、仲間に対する裏切り行為です。真実ではないこと、これが咎められているのです。

そしてペテロは、「**あなたは人を欺いたのではなく、神を欺いたのだ**」と言っています。聖霊は神ご自身ですから、聖霊を欺いたのであれば、神を欺いたことになります。アナニアとサツピラは、仲間を欺いているつもりでした。しかし、聖霊のおられる兄弟姉妹の間に、欺きや偽善をもたらせば、それは神に対して欺いているのだということを知らないといけません。パウロが勧めました、「**ロマ 12:9-10 愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善から離れないようにしなさい。10 兄弟愛をもって互いに愛し合い、互いに相手をすぐれた者として尊敬し合いなさい。**」

私たちは、こうした偽善は、大したことがないと思いがちです。自分が罪深いと思われることを非常に恐れて、それで、自分が霊的であり、良い人間であるかのように見せかけるのですが、ここで立ち返らないといけないのが、福音なのです。イエスは、だれが見ても罪人だと分かるような人であっても、自分のことが明らかにされた後でも主から離れない人は、祝福されています。サマリヤの女がそうですね。彼女は、自分がこれまで五人の男と付き合っていて、今の男は結婚していないと明らかにされました。すると彼女は、そのまま認め、イエスが神の預言者だと認めました。そして主は、彼女は、メシアが来られたら、すべてを明らかにすると言ったことに対して、「**ヨハ 4:26 あなたと話しているこのわたしがそれです**」と明かしたのです。ユダヤ人たちにさえ明かしていないことを、明らかにされました！

このサマリヤの女は、生活はふしだらであったものの、それは反面、何か霊的に求めていたと言えます。それが見つからず、男に依存していったと言えます。なぜなら、多くのユダヤ人たちが持っていたメシア観以上に、彼女のメシアの捉え方が正しかったからです。「**一切のことを私たちに知らせてくださるでしょう。(4:25)**」と言ったのです。人間的に言えば、「人は見かけによらず」であります。私たちがどこまで、福音に根ざしているか？が問われます。

それに対して、主がパリサイ人に対しては、ご存知のように、厳しい言葉をかけられました。彼らのことを、白く塗った墓であるとまで断罪しました。白く見せているが、中は死体の骨だらけだということです。死体は律法で汚れているとされていますから、これはものすごく強い非難です。ここに、

私たちが、どこに聖さがあるのかをしっかりと捉えていないといけません。主は偽善に対して、強く叱責されているのです。それに対して、へりくだり、悔い改める罪人に対しては、信じられないぐらい寛容なのです。なぜなら、福音にこそ神の救いがあり、神の聖さがあるからです。

3B 息絶える妻 7-10

⁵ このことばを聞くと、アナニアは倒れて息が絶えた。これを聞いたすべての人たちに、大きな恐れが生じた。⁶ 若者たちは立ち上がって彼のからだを包み、運び出して葬った。

アナニアが、倒れて死んでしまいました。旧約の時代、先ほど話したようにアロンの息子は火で焼かれました。アカンが石打の死刑にあいました。ずっと後、バビロンから帰還した民で異邦人を妻としている人々について、エズラは打ちひしがれ泣きましたし、ネヘミヤは相手の髭を抜いてまで、怒り、強く臨みました。聖霊が働かれるところでは、聖なる御霊なのですから、聖さが侵されてはいけないのです。

このようにして、主はご自分の聖さを保つために、罪を取り除かれる方なのだということを知らないといけません。私たちには、健全なバランスが必要です。それは、どんな罪人をも、悔い改める者たちには愛をもって受け入れられるということ。しかし、その罪を悔い改めないで、むしろ、それを覆い隠して居座ろうとする人たちは、教会が聖なる所であるゆえに、いることができなくなることであります。そこを妥協してしまうところに、聖霊の火が消され、教会に力を失うことになり、教会という体裁はあっても、力を失ってしまうことがあります。敬虔に、神の力があるのです。

⁷ さて、三時間ほどたって、アナニアの妻がこの出来事を知らずに入ってきた。⁸ ペテロは彼女に言った。「あなたがたは地所をこの値段で売ったのか。私に言いなさい。」彼女は「はい、その値段です」と言った。⁹ そこでペテロは彼女に言った。「なぜあなたがたは、心を合わせて主の御霊を試みたのか。見なさい。あなたの夫を葬った人たちの足が戸口まで来ている。彼らがあなたを運び出すことになる。」

ペテロは、事実を確認するようにしてサツピラに尋ねています。彼女が同意の上で偽っていたと疑われたのですが、公正であるためにまず事実を確認しています。

「心を合わせて主の御霊を試みたのか」ということは、非常に残念です。これまで、心を合わせて祈ることはありました。心を合わせて、互いのものを分かち合うことはありました。けれども、心を合わせて主の御霊を試みるとは、本当に残念です。心を合わせることが、必ずしも正しいことではなく、まさに主を試みることもあるのです。コラとルベン族の仲間が、心を一つにしてモーセとアロンに逆らいました。すると、地面が割れて、生きたまま陰府に投げ落とされました。

先に夫を葬った若者たちの「**足が戸口まで来ている。**」というのは、主が今にでも裁くために臨まれるということです。ヤコブがこんなことを言っています。「5:9 兄弟たち。さばかれることがないように、互いに文句を言い合うのはやめなさい。見なさい。さばきを行う方が戸口のところに立っておられます。」

¹⁰ すると、即座に彼女はペテロの足もとに倒れて、息絶えた。入って来た若者たちは、彼女が死んでいるのを見て運び出し、夫のそばに葬った。

ルカは、「**ペテロの足もとに倒れて**」と細かく表現していますが、足元にひれ伏すことは、当時、相手に対する最大の敬意でした。彼らが聖霊を欺いたことによって、主ご自身が強いるようにして、ペテロの足元で倒れさせるようにされました。自ら主の御霊に従うのであれば、そこには大きな恵みがありますが、逆らうのであれば、結局、同じように従わなければいけないのですが、裁かれるためにそう強いられているのです。

4B 教会全体への恐れ 11

¹¹ そして、教会全体と、このことを聞いたすべての人たちに、大きな恐れが生じた。

この出来事を通して、教会は難局を乗り越えることができました。主が、悪を教会から取り除かれ、聖めました。教会全体だけでなく、それを聞いたすべての人々、すなわち、信じていない人々も含まれるでしょう、大きな恐れが生じています。私たちはとかく、罪を神が裁かれるということについて、つまずきを与えてしまうと思うのですが、これは大間違いです。私たちは世の光、地の塩として召されています。主が聖なる方で、罪を裁かれる方だということが、教会で示されることは、かえって人々を引き付けるのです。

同じようなことが、黙示録で、ティアティラの教会で起こりました。イゼベルと呼ばれる女預言者が、主のしもべたちに偽りの教えで惑わし、淫らなことを行わせました。悔い改めの機会をイエス様は与えましたが、応答しませんでした。それでこう言われています。「2:22 見よ、わたしはこの女を病と床に投げ込む。・・・また、この女の子どもたちを死病で殺す。こうしてすべての教会は、わたしが人の思いと心を探る者であることを知る。わたしは、あなたがたの行いに応じて一人ひとりに報いる。」すべての教会が知り、主を恐れる出来事として覚えられます。一人一人が、自分の心と思いを探り、主から報いを受ける存在なのだとことを知ります。この後で、ティアティラの教会には、勝利する者たちが出てきます。

このように、主は恵みによって人々を救われます。そして、救った者たちを聖めてくださいます。私たちは不完全な者たちです。しかし、恵みによって集まっている時に、そこに主の聖さがとどまっているのです。私たちが何か立派な人間になったというではありません。むしろ、自分たちがただ、

主の一方的な恵みで自分が生きているのだ、こんな罪深い者なのに、それでも生かされているのだという、畏れ多い思いを抱えていることが肝要なのです。

2A 使徒たちによるしと不思議 12-16

1B 心ひとつにした仲間 12-14

¹² さて、使徒たちの手により、多くのしと不思議が人々の間で行われた。皆は心をつにしてソロモンの回廊にいた。

アナニアとサッピラが死んでしまったことで、教会に恐れが生じました。そして、この力強い働きがあります。言い換えますと、「主の聖さがあるところに、力がある」ということです。「ヘブル 12:14 すべての人との平和を追い求め、また、聖さを追い求めなさい。聖さがなければ、だれも主を見ることができません。」そして、「皆は心をつにして」とあります。偽善や欺きのあるところで一致は望めません。けれども、悪が取り除かれたことによって、聖霊が一つの心を与えておられます。

「ソロモンの回廊」ですが、足なえの男が立ち上がった後に、ペテロが人々に説教したのも、ソロモンの回廊でした。そこが、定期的な集まる場所になっていたようです。

¹³ ほかに人たちはだれもあえて彼らの仲間に加わろうとはしなかったが、民は彼らを尊敬していた。
¹⁴ そして、主を信じる者たちはますます増え、男も女も大勢になった。

主の力ある働きを見て、そこに対する一種の畏敬のようなものが、信じていない人々にもあったようです。軽々しい気持ちで仲間に加わっていけないと思ったのでしょう。加わろうとはしませんでした。尊敬していたのです。しばしば、教会は敷居が高いと言われます。私たちが、福音の真理以外のことで、人々に疎外感を与えるようなものがあってはいけません。けれども、世と変わらないということであれば、なぜ教会があるのか？ということです。主がおられるのですから、そこに敬虔さ、聖さを人々が感じるのは、健全なことです。

そして、そうした中で、主を信じる人々も増えていくのです。男たちだけでなく、女でもあります。福音は、男も女もキリストにあって一つであることを教えています。ローマ社会では貶められていた女たちが、キリストにあって、神のかたちとしての尊厳を回復します。

2B 病人や悪霊つきの癒し 15-16

¹⁵ そしてついには、病人を大通りへ運び出し、寝台や寝床の上に寝かせて、ペテロが通りかかるときには、せめてその影だけでも、病人のだれかにかかるようにするほどになった。

ペテロによって主が行われていることは、まさに主ご自身が行われていることに似ています。主

のところに来て、その衣の裾にさえ触れたら癒されると思って、それを行った長血を患う女が、その場で癒されました。ここでは、影にだけでも、病人のだれかにかかるようにするほど、寝台や寝床を並べていたのです。

ここで大事なのは、ペテロそのものにその力が隠されているのではないということです。彼は足なえを起き上がらせた後に、「3:12 私たちが自分の力や敬虔さによって彼を歩かせたかのように、私たちを見つめるのですか。」と言いましたが、彼の力ではないのです。長血をわずらう女のことを思い出してみましょう、イエス様は、「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。」と言われました(マルコ 5:34)。イエス様の衣の裾に、その力が宿っていたわけではありません。「5:28 あの方の衣にでも触れれば、私は救われる。」と彼女が信じて、行動に移したのです。つまり、主によって与えられた信仰を、意欲的に、積極的に働かせたのです。漠然と、主は癒されると信じるのではなく、今、ここに与えられている状況の中で、癒しの主が介入してくださるという信仰であります。

ここにいる人々が、今の私たちに与えられている医療技術や医療制度が、ほとんど全くないことにお気づきください。今であれば簡単な治療薬で癒せるものを、当時は全くないということがほとんどですから、彼らにとっての病は私たちよりもはるかに身近な存在です。その分、癒しというのは神からくるものだということを良く知っていました。医者に頼らずに、神に頼ることを知っていたのです。私たちに不足しているということは、そこに信仰を働かせる神の恵みが多くなるということです。ヤコブは貧しい人について、こう言いました。「ヤコブ 2:5 私の愛する兄弟たち、よく聞きなさい。神は、この世の貧しい人たちを選んで信仰に富む者とし、神を愛する者に約束された御国を受け継ぐ者とされたではありませんか。」

¹⁶ また、エルサレム付近の町々から大勢の人が、病人や、汚れた霊に苦しめられている人々を連れて集まって来た。その人々はみな癒やされた。

「エルサレム付近の町々から」人々が集まっています。このことによって、使徒の働き 1 章 8 節にあった、イエスの弟子たちに対する約束が実現したことが分かります。「しかし、聖霊があなたの上に臨むときに、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」ユダヤ地方とあります。エルサレムとその付近やユダヤ地方です。エルサレムだけでなく、ユダヤ地方にも広まっていきました。

このようにして、外からだけでなく、内からの偽善という危機に対して、教会が主の聖さを保つという対応を見ました。そして、そのことがかえって、教会の一致を増やし、またまだ信じていない人々にも、一目置かれることになっていくのです。そして、主の御力がますます現れ、福音が広がっていきます。